



御即位を奉祝して

新調した神輿披露

天祖神社

【東京】世田谷区の天祖神社（中原正明宮司）では、御即位奉祝事業として新調を進めてきた神

輿がこのほど完成し、九月八日に氏子総代ら約百人参集のもと「お披露目会」をおこなった。

神輿新調の契機となったのは昨年一月から放送されてゐるNHK・Eテレ（教育テレビ）の小学校三年生向け社会科番組。地域の年中行事である祭礼の歴史を調べ、その意味や後世に伝へ続けていく意義について学ぶ回で、同神社と氏子地域が撮影場所となったことで気運が昂った。

これまでの神輿は前回の修理から約二十五年が経過してをり、同神社では改修の必要性など対処策が話し合はれてゐた。それが番組撮影を機に「新しく現在の神輿より一回り大きな神輿を作製したらどうか」との話に弾みがつき、昨年五月から氏子らに奉賛を呼び掛けてきた。

完成したのは台輪寸法二尺三寸の神輿。披露当日は社殿前に神輿が置かれ、境内に次々と集まってきた氏子総代らが、うれしそうに写真を撮った

り担ぎ棒に触れてみたりする姿が多く見られた。「お披露目会」は午前十一時から神楽殿を舞台におこなはれ、開会の辞に続き殿内に掲げられた国旗を通じて伊勢の神宮を遙拝し、国歌を斉唱。このうち中原宮司が神輿制作にあたった有限会社中台製作所に対し感謝状を贈呈した。

続いて都神社庁長からの祝辞を中原宮司が代読したのち、衆議院議員、都議会議員、区議会議員や町会長ら来賓を紹介。参集者一同で聖寿の万歳をおこなひ、最後に謝辞に立った中原宮司が「地域の繋がりが新しい神輿といふ形になったと思つてゐる。今後ますますお祭りが賑はひ、地域が発展していくことを願つてゐる」と述べた。

引き続き境内のテントで懇親会があり、新しい神輿が担がれる来月の例祭に向け、一同は親交を深めた。

境内整備も実施

同神社では神輿新調に併せ、境内入り口の一つである女坂（スロープ）の改修工事及び玉垣補修工事も実施。高齢の参拝者の便を図るとともに、安全な境内を目指しての境内整備をおこなつてゐる。